

# 《開幕》地球がまわる音を聴く： パンデミック以降のウェルビーイング

2022年6月29日(水)ー11月6日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

## 五感を研ぎ澄まし、想像力を働かせて、リアルな空間でアートと出会おう

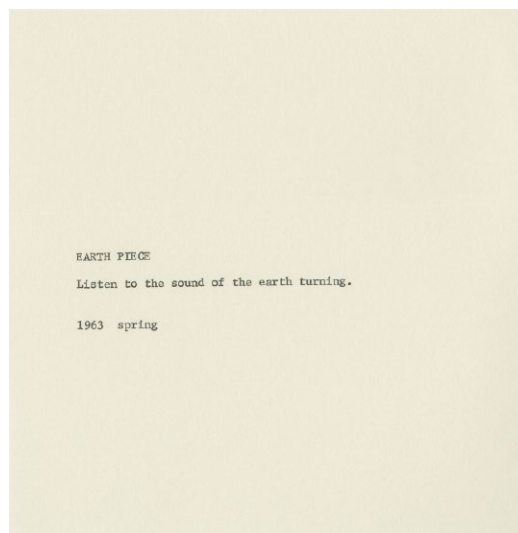
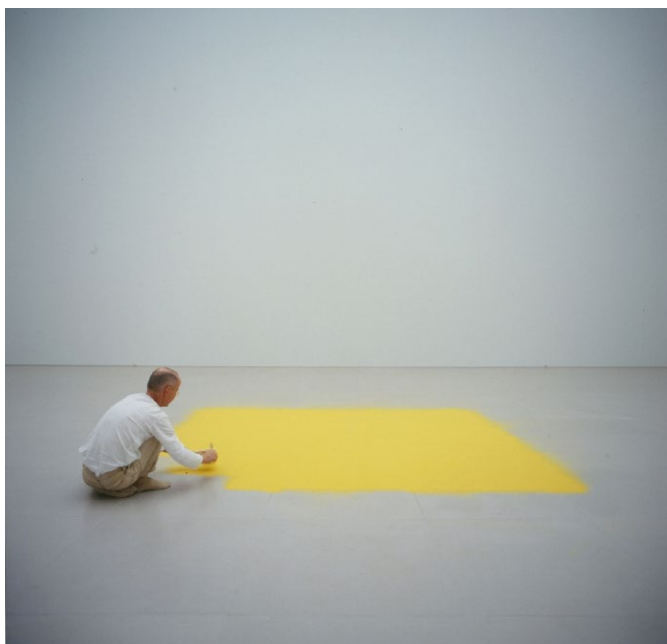
森美術館は、2022年6月29日(水)から11月6日(日)まで、「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」を開催します。

2020年以降、目に見えないウイルスによって日常が奪われ、私たちの生活や心境は大きく変化しました。こうした状況下、現代アートを含むさまざまな芸術表現が、かつてない切実さで心に響きます。本展では、パンデミック以降の新しい時代をいかに生きるのか、心身ともに健康である「ウェルビーイング」とは何か、を現代アートに込められた多様な視点を通して考えます。自然と人間、個人と社会、家族、繰り返される日常、精神世界、生と死など、生や実存に結びつく主題の作品が「よく生きること」への考察を促します。

また、本展では、美術館ならではのリアルな空間での体験を重視し、インスタレーション、彫刻、映像、写真、絵画など、国内外のアーティスト16名による約140点の作品を紹介します。五感を研ぎ澄ませ、作品の素材やスケールを体感しながらアートと向き合うことは、他者や社会から与えられるのではない、自分自身にとってのウェルビーイング、すなわち「よく生きること」について考えるきっかけになることでしょう。

本展のタイトル「地球がまわる音を聴く」は、オノ・ヨーコのインストラクション・アート<sup>※1</sup>から引用しています。意識を壮大な宇宙へと誘い、私たちがその営みの一部に過ぎないことを想像させ、新たな思索へと導いてくれるものです。パンデミック以降の世界において、人間の生を本質的に問い直そうとするとき、こうした想像力こそが私たちに未来の可能性を示してくれるのではないのでしょうか。

※1 コンセプチュアル・アートの形式のひとつで、作家からのインストラクション(指示)そのもの、あるいはその記述自体を作品としたもの。



〈左〉《ヘーゼルナッツの花粉》を展示するヴォルフガング・ライブ、豊田市美術館(愛知)2003年  
 Courtesy: ケンジタキギャラリー(名古屋、東京) 撮影: 怡土鉄夫 ※参考図版  
 〈上〉オノ・ヨーコ 《地球の曲》 1963年春 オフセット・プリント  
 オノ・ヨーコ「Grapefruit」(Wunternbaum Press、東京、1964年)より

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上  
 Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

## 出展アーティスト \* 姓のアルファベット順

エレン・アルトフェスト	1970年ニューヨーク生まれ、同地およびコネチカット州ケント在住
青野文昭	1968年宮城県生まれ、同地在住
モンティエン・ブンマー	1953年バンコク生まれ、2000年同地にて没
ロベール・クートラス	1930年パリ生まれ、1985年同地にて没
堀尾昭子	1937年徳島県生まれ、兵庫県在住
堀尾貞治	1939年兵庫県生まれ、2018年同地にて没
飯山由貴	1988年神奈川県生まれ、東京都在住
金崎将司	1990年東京都生まれ、同地在住
金沢寿美	1979年兵庫県生まれ、東京都在住
小泉明郎	1976年群馬県生まれ、神奈川県在住
ヴォルフガング・ライブ	1950年ドイツ、メッツィンゲン生まれ、ドイツ南部、南インドおよびニューヨーク在住
ゾーイ・レナード	1961年ニューヨーク生まれ、同地在住
内藤正敏	1938年東京都生まれ、同地在住
オノ・ヨーコ	1933年東京都生まれ、ニューヨーク在住
ツァイ・チャウエイ(蔡佳葳)	1980年台北生まれ、同地在住
ギド・ファン・デア・ウェルヴェ	1977年オランダ、パーペンドレヒト生まれ、ベルリン、アムステルダムおよびフィンランド、ハッシ在住

## 開催概要

**展覧会名:**「地球がまわる音を聴く:パンデミック以降のウェルビーイング」

**主催:**森美術館

**助成:**ウエルカム財団

**協賛:**株式会社大林組、鹿島建設株式会社、株式会社きんでん、株式会社竹中工務店、トヨタ自動車株式会社、  
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、ネクストミーツ株式会社、NTTコミュニケーションズ株式会社

**企画:**片岡真実(森美術館館長)

熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)

徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

**会期:**2022年6月29日(水)-11月6日(日)

**会場:**森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

**開館時間:**10:00-22:00(火曜日のみ17:00まで)

\* 入館は閉館時間の30分前まで \* 会期中無休

\* 当館の新型コロナウイルスの感染症対策への取り組みについては  
ウェブサイトでご確認ください。

<https://art-view.roppongihills.com/jp/info/countermeasures/index.html>



**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上  
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

## 入館料:

	[平日]		[土・日・休日]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	1,800円	1,600円	2,000円	1,800円
学生(高校・大学生)	1,200円	1,100円	1,300円	1,200円
子供(4歳~中学生)	600円	500円	700円	600円
シニア(65歳以上)	1,500円	1,300円	1,700円	1,500円

\* 事前予約制(日時指定券)を導入しています。専用オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。

\* 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。

\* 表示料金は消費税込

\* 音声ガイド付チケット(+500円)も販売しています。

\* 東京シティビュー(屋内展望台)、スカイデッキ(屋上展望台)、森アートセンターギャラリーへの入館は別料金になります。

\* 本展のチケットで、同時開催プログラムもご鑑賞いただけます。

**同時開催:** 「MAMコレクション015: 仙境へようこそーやなぎみわ、小谷元彦、ユ・スンホ、名和晃平」

「MAMスクリーン016: ツァオ・フェイ(曹斐)」

「MAM リサーチ009: 正義をもとめてーアジア系アメリカ人の芸術運動」

**一般のお問い合わせ:** Tel: 050-5541-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)



金沢寿美

展示風景: 「第6回新鋭作家展 影⇄光」川口市立アートギャラリー・アトリア(埼玉)2017年

撮影: 阿部萌夢

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。

<https://bit.ly/35bUcPv>

## プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上

Tel: 03-6264-2039 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)

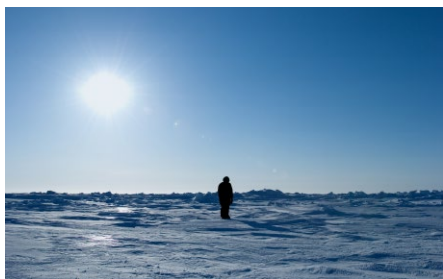
## 本展が問いかけるもの & 出展作品について

### ■ パンデミック以降をいかに生きるか？

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、世界中の活動が急に停止した時、人間には何ができたのでしょうか？アートには何ができたのでしょうか？パンデミック以降をいかに生きるべきなのでしょうか？

**オノ・ヨーコ**のインストラクション(指示書)を集めた「グレープフルーツ」には、本展のタイトルにもなっている「地球がまわる音を聴く」など、想像するだけで世界が広がる言葉があふれています。また、**ギド・ファン・デア・ウェルヴェ**が行った自宅の回りを何千周も走り続け100キロを走破するというパフォーマンスは、日々の行為の積み重ね自体が壮大な営為になり得ることを表しています。**ヴォルフガング・ライプ**は、花粉や蜜蝋、牛乳などの身近なものを用いて、生命のエッセンスを最もシンプルかつ美しく提示してきました。**エレン・アルトフェスト**の森の中で描き続けた木の絵は、自然やそこに含まれる幾多の生命の本質を明示します。

「パンデミック以降をいかに生きるか？」を考えるために、これらの作品の想像力を借りて、この複雑で広大な世界を省みること、本質を見つめ直すことから始めてみるのはいかがでしょうか。



〈左〉  
ギド・ファン・デア・ウェルヴェ 《第9番 世界と一緒に回らなかった日》  
2007年 ハイビジョン・ビデオ・インスタレーション 8分40秒  
Courtesy: Monitor Gallery; Grimm, Amsterdam; Luhring Augustine, New York  
撮影:ベン・ゲラーツ

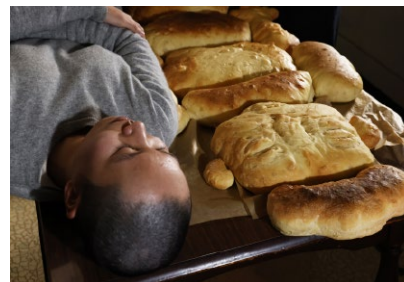
〈右〉  
エレン・アルトフェスト 《木々》  
2022年 油彩、キャンバス 26 x 30.2 cm  
Courtesy: White Cube  
撮影:トーマス・ミュラー

### ■ 私たちの心はどのように社会を捉え、どのような風景を描いたのか？

パンデミックは、世界中に健康危機をもたらしただけでなく、私たちの生きる社会に横たわるさまざまな問題、分断や衝突を可視化し、国や人種、宗教といった大きな枠組みから、地域や家庭といったより身近な環境、生き方をも直視させました。そうした状況のなかで私たちの心は、どのような風景を描いていたのでしょうか？

ドメスティック・バイオレンス(DV)をテーマにした**飯山由貴**の新作は、被害者と加害者の双方からのインタビューを中心としたインスタレーション作品で、鑑賞する私たちひとりひとりに、自分自身の日常を異なる視点から見つめることを促します。**小泉明郎**の新作映像は、催眠術を用いて言語に頼った人間の認識の脆弱性を明らかにしながらも、心の回復の可能性を考察するものです。また**ゾーイ・レナード**の作品も、日常的な行為が救済につながる可能性や、連帯するコミュニティの力強さを示します。

さまざまな状況下で社会や自分自身と向き合うアーティストたちの作品は、私たちの生活や身の回りの環境を、異なる視点から観察し、再考することの重要性を示しています。



飯山由貴 《家長制を食べる》  
2022年 4Kビデオ、サウンド  
Courtesy: WAITINGROOM(東京) 撮影:金川晋吾  
※本作はウエルカム財団(ロンドン)のメンタルヘルスについての国際文化プログラム「マインドスケープ」の一環として制作されます。  
<https://wellcome.org/what-we-do/our-work/mindscape>

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上  
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

## ■ 生きることそのものが芸術になるのか？

堀尾貞治は、表現することは生きる上でまるで空気のように存在する「あたりまえのこと」であるとし、さまざまなメディアを用いて全身全霊で作品制作に取り組みました。その数は10万点を超えます。妻である堀尾昭子も同じ場所で生活し、全く性格の異なる作品を制作し続け、二人の生活はそのまま芸術表現に繋がっていました。ロベール・クートラスは、画壇をはなれ、困窮の中で自身が信じる作品世界を追求し続けました。金崎将司は高度な集中力を持続し、雑誌や広告の断片を重ね、抽象的な立体を制作し続けます。

あらゆるものの定義や前提が揺るがされた今、「生きることとはなにか」という問いに、もう一度、向き合う必要があるのではないのでしょうか。表現する衝動やエネルギーが作品からあふれ出し、生きることの根源的な意味と直結するこれらの作品は、まさにひとつの回答を提示しているといえるでしょう。



ロベール・クートラス  
《僕の夜のコンポジション(リザーブカルト)》  
1970年  
油彩、ボール紙 約12×6 cm(各)  
撮影：内田芳孝+岡野圭、片村文人



金崎将司 《山びこ》2014年  
雑誌、チラシ、ほか 31×50×25 cm

## ■ 自分と宇宙、今日の一瞬と永遠はどう繋がっているのか？

有史以来、人類は自然災害や争い、そして病など、さまざまな困難に絶えず直面してきました。日々を生きることが脅かされるとき、私たちはどのようにそれを乗り越えてきたのでしょうか。過去や自然から学び、壮大な時間と空間の流れのなかに自分自身を位置づけてみることは、そのひとつの方法かもしれません。

東北をテーマとした内藤正敏の写真作品と青野文昭のインスタレーションはどちらも、遥か過去と現在を繋ぎ、自然や宇宙、神々や霊的な存在への畏怖の念とともに歩んだ人類の歴史を感じさせます。また、新聞という日常的な素材を用いた金沢寿美の作品は、紙面に掲載される大小さまざまな出来事の連なりが、やがては宇宙をも思わせる大きな時間の流れとなることを、大型のインスタレーションで表現しています。展覧会の最後を飾るモンティエン・ブンマーのインスタレーション作品は、鑑賞する人に呼吸を整え瞑想する空間を与え、ツァイ・チャウエイ(蔡佳葳)の作品は、鏡に映り込むわたしたち自身の存在もまた、曼荼羅の表す壮大な宇宙の一部であることを示しているようです。



ツァイ・チャウエイ(蔡佳葳)  
《子宮とダイヤモンド》(部分)  
2021年 手吹きガラス、鏡、ダイヤモンド 300×600 cm  
展示風景：「ツァイ・チャウエイ：子宮とダイヤモンド」リブ・フォー・エバー財団(台中)  
2021年

### プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上  
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

## ?! 展覧会関連プログラム

### ■ シンポジウム「現代アートとウェルビーイング」 ※日英同時通訳付

展覧会の開幕にあわせ、展覧会が問い掛ける課題を多分野の専門家や参加者とともに、オンラインでなく直接議論する2日間のシンポジウムを開催します。1日目は、さまざまな分野で活躍する専門家の方を招き、それぞれの視点から考えるウェルビーイング、すなわち「よく生きること」について共に語り合います。2日目は、本展出展アーティスト3名が登場し、アートとウェルビーイングの関係性についての思考をさらに深めていきます。皆さんにとってのウェルビーイングとは何か、あらためて一緒に考えてみませんか。

**日時:** 2022年7月1日(金)18:00~20:00、7月2日(土)14:00~18:00

**会場:** アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)

**主催:** 森美術館

**助成:** ウェルカム財団

**お申し込み:** 森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

※1日目、2日目の両日参加をご希望の方は、各日、お申し込みが必要です。

#### 1日目 「“ウェルビーイング”を考えるーアートに期待されること」

文学、医療人類学、宗教学、認知心理学それぞれの分野で、パンデミック以降、とりわけ関心の高まっている“ウェルビーイング”について、最新の研究あるいは近年の動向を参照しながら考えます。さらに、これらの分野の視点から、現代アートに期待されること、現代アートであるがゆえに可能な貢献について議論します。

**日時:** 2022年7月1日(金)18:00~20:00(開場:17:30)

**出演:** 小野正嗣(小説家、早稲田大学教授)、北中淳子(慶應大学教授)、佐々木閑(花園大学特任教授)、  
吉川左紀子(京都芸術大学学長、京都大学名誉教授)

**モデレーター:** 片岡真実(森美術館館長)

**定員:** 150名(要予約) **料金:** 500円(展覧会チケット別)

#### 2日目 トークセッション1~3

本展出展アーティストであるヴォルフガング・ライブ、エレン・アルトフェスト、飯山由貴の3名が登場します。それぞれのアーティストの活動に関連する専門家やキュレーターとともに、アートとウェルビーイングの関係性について語ります。

**日時:** 2022年7月2日(土)14:00~18:00(開場:13:30)

**定員:** 150名(要予約) **料金:** 500円(展覧会チケット別)

##### 14:00~15:20 トークセッション1「アートにみる瞑想について」

**出演:** エレン・アルトフェスト(本展出展アーティスト)、大澤玄果(厭離庵住職)、  
マーティン・ゲルマン(森美術館アジャクト・キュレーター)

**モデレーター:** 徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

##### 15:30~16:50 トークセッション2「社会に生きるわたしたちへ」

**出演:** 飯山由貴(本展出展アーティスト)、堀内奈穂子(特定非営利活動法人アーツイニシアティブトウキョウ[AIT/エイト]  
キュレーター、dearMeディレクター)

**モデレーター:** 熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)

##### 17:00~18:00 トークセッション3「花粉から宇宙まで」

**出演:** ヴォルフガング・ライブ(本展出展アーティスト) **聞き手:** 片岡真実(森美術館館長)

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上  
Tel: 03-6264-2039 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)

## ■ ギャラリートーク ※日本語のみ

本展を担当した美術館スタッフとラーニング担当スタッフが展示室内でツアー形式のトークを行います。

- 日時:** 1) 2022年 7月13日(水)19:00~20:00 ガイド: 徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)  
 2) 2022年 7月20日(水)19:00~20:00 ガイド: 熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)  
 3) 2022年10月 5日(水)19:00~20:00 ガイド: 飯岡 陸(森美術館アシスタント)  
 4) 2022年10月19日(水)19:00~20:00 ガイド: 山縣青矢(森美術館アシスタント)  
 5) 2022年10月26日(水)19:00~20:00 ガイド: 白木栄世(森美術館アソシエイト・ラーニング・キュレーター)

**会場:** 森美術館展示室内 **定員:** 各回15名 **料金:** 無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

**お申し込み:** 不要(当日先着順、展覧会会場入口にお集まりください)

## まちと美術館のプログラム

「アート・キャンプ for under 22 Vol.8 作品と人と人をつなぐ」

「アート・キャンプ for under 22 Vol.9 IN/BETWEEN:美術館をつなぐ」

\* 日本語のみ \* 手話、筆談での対話をご希望の方はお申し込み時にお知らせください。

森ビルと森美術館は、世界各地のアーティストとコラボレーションし、美術館や街のなかでさまざまなプログラムを実施してきました。2018年夏よりスタートした「アート・キャンプ」は、若い世代を対象とし、学校教育のような「教える」「教えられる」の関係とは異なる環境で、森美術館や六本木ヒルズの街全体をキャンパスに、アーティストやキュレーター、アートの専門家といっしょに「現代アート」について語りあうプログラムです。学校や家庭など身の回りで起こっていることと歴史上の出来事、現在世界で起こっている社会的、政治的、文化的な事象との関連性について対話を通して考えることで、現代アートの楽しさを体験します。

「アート・キャンプ for under 22 Vol.8 作品と人と人をつなぐ」

8回目を迎える本プログラムでは、パンデミック以降の時代をいかに「よく生きるか」をテーマにした「地球がまわる音を聴く」展を舞台に、作品鑑賞をとおして他者を想像することに焦点をおいて活動を行います。自分らしく生きることは、誰もが望むもの。そして誰もが、文化を享受する権利をもっています。プログラム1日目には、アートと“ウェルビーイング”の関係を参加者の皆さんと一緒にディスカッション形式で考えます。2日目は、隣にいる友人に作品鑑賞の魅力を伝えるとしたらどんな方法が最適かを想像し、実践してみます。最終日の3日目は応用編として、「オンラインでアート」参加者に、展覧会や作品を本アート・キャンプの参加者の皆さんの言葉で紹介します。自分の言葉で考え、隣にいる他者を想像する全3回のプログラムです。

**1日目: トーク&ディスカッション「表現の生命を観察し、精神を呼吸しようーアートとウェルビーイングの関係って?」**

**日時:** 2022年7月22日(金)14:00~17:00

**出演:** 堀内奈穂子(特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]キュレーター、dearMe ディレクター)

**2日目: 「多様な人とアート鑑賞を“つくる”ワークショップ」**

**日時:** 2022年8月13日(土)10:00~16:00

**出演:** 金森 香(THEATRE for ALL ディレクター)、ほか

**3日目: 「オンラインでアート」**

**日時:** 2022年8月20日(土)14:00~17:00

**会場:** 森美術館オーデトリウム、森美術館展示室内

**対象:** 13歳~22歳 **定員:** 15名程度(要予約) **料金:** 無料

**主催:** 森ビル株式会社、森美術館

**助成:** ウェルカム財団

**お申し込み:** 2022年6月29日(水)より、森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum) にて受付を開始します。

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上  
 Tel: 03-6264-2039 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)

### 「アート・キャンプ for under 22 Vol.9 IN/BETWEEN:美術館をつなぐ」

2年目となる坂本善三美術館(熊本県小国町)との連携プログラムは、昨年と同じく13~22歳のユース世代から参加者を募り、六本木と小国町のふたつの美術館をオンラインでつなぎます。今回は、双方の美術館のコレクション作品に着目し、美術館の大事な活動である「調査」、「収集」、「保存」について考えます。アーティストや美術館スタッフと出会い、自分の言葉でアートについて語り、アート鑑賞を通して「他者を知ること」を目的とした、全4日間のプログラムです。

なお、本連携プログラムは2023年に坂本善三美術館で開催予定の「好きなものを好きって言う」をテーマとした展覧会のプレプログラムとして今後も継続的に実施し、参加した皆さんと一緒に展覧会をつくっていきます。

地域を越え、アートを通して出会う人と人とのつながりをオンラインで体験し、展覧会づくりについて考えてみませんか。

**日時:** 2022年8月4日(木)、8月5日(金)、8月18日(木)、8月19日(金) 各日15:00~17:00

**出演:** 山田 毅(美術家・只本屋代表)、山下弘子(坂本善三美術館学芸員)、小山田洋子(森美術館コーディネーター)、白木栄世(森美術館アソシエイト・ラーニング・キュレーター)

**会場:** Zoomを使ってのオンライン・プログラムとして実施します。

**対象:** 13歳~22歳 **定員:** 20名程度(要予約) **料金:** 無料

**主催:** 森ビル株式会社、森美術館、坂本善三美術館 **助成:** ウエルカム財団

**お申し込み:** 2022年6月29日(水)より、森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum) にて受付を開始します。

## まちと美術館のプログラム 森美術館×ヒルズ街育プロジェクト

### 「文化とともに暮らせる街について学ぼう! アートのヒミツ探検ツアー」

「文化都心」をコンセプトにつくられた街「六本木ヒルズ」を教材として、アートの専門家である森美術館スタッフとともに、開催中の「地球がまわる音を聴く」展を鑑賞し、アートのヒミツを探ります。

**日時:** 2022年7月29日(金) 1)10:30~12:30 2)14:30~16:30

**会場:** 森美術館展示室内

**対象:** 小学3年生~6年生、およびその保護者 **定員:** 各回15組(要予約・抽選) **料金:** 無料

**主催:** 森ビル株式会社、森美術館

**お申し込み:** 2022年7月1日(金)の11:00から、7月13日(水)の12:00までの間、森ビル広報室「ヒルズ街育プロジェクト」サイト <https://www.mori.co.jp/machiiku/tour> にて受け付けます。

## まちと美術館のプログラム

### Meet the Artists 井上尚子「くんくん地球ウォーク@森美術館」

2020年夏にスタートした、アーティストやキュレーターと一緒に活動するワークショップ・シリーズ「Meet the Artists」。今回は、自然と人間の関係性を読み解く鍵として、身体感覚の可能性を追究するアーティストと共に、五感を通して「地球がまわる音を聴く」展を読み解きます。

“においと記憶”に着目しながら六本木ヒルズ内の毛利庭園を探索したり、美術館でアートを鑑賞したりするとどんな気持ちがするでしょうか。みんなで嗅覚を研ぎ澄ませてにおいを集め、世界にひとつの自分だけの「くんくんボトル」を作り、においのイメージを形で表現します。人間の記憶に深く結びつく嗅覚にまつわる学びと展覧会鑑賞を通して、自然や私たちの日常の新たな一面を発見します。

**日時:** 2022年8月20日(土) 10:00~12:30

**出演:** 井上尚子(美術作家)

**会場:** 森美術館、六本木ヒルズ内 **対象:** 小学3年生~6年生 **定員:** 15名(要予約・抽選) **料金:** 無料

**お申し込み:** 後日、森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum) にて受付を開始します。

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上  
Tel: 03-6264-2039 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)



## ■ アクセス・オンライン・プログラム「オンラインでアート」 ※日本語のみ

森美術館ラーニング・スタッフが開催中の展覧会を紹介しながら、現代アートの楽しみ方や森美術館がある六本木の街の楽しみ方などについてお話しします。参加される方にあわせた対話形式で実施しますので、まだ森美術館に来たことがない方、思うように外出ができない方、どなたでも気軽にご参加ください。

お申し込みの際に、言葉による作品の説明や手話での対話など、必要なお手伝いについてお知らせください。

**日時:** 1)2022年 8月20日(土) 15:00~16:00

2)2022年 9月16日(金) 17:00~18:30

3)2022年10月28日(金) 17:00~18:30

※8月20日に開催する本「オンラインでアート」は、「アート・キャンプVol.8(3日目)」との共同開催です。

**会場:** Zoom を使ったのオンライン・プログラムとして実施します。

**定員:** 各10組(要予約) **料金:** 無料

**お申し込み:** 後日、森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum) にて受付を開始します。

## ■ おやこでアート ファミリーアワー

0歳から6歳までのお子さまと一緒に、森美術館へ出かけませんか?開館前の美術館を貸し切り、小さなお子さまと安心してご鑑賞いただけます。現在妊娠中のプレママ&プレパパとそのご家族もぜひご参加ください。

**日時:** 2022年8月12日(金) 9:15~10:30

**会場:** 森美術館展示室内

**対象:** 未就学児(0~6歳)とそのご家族、現在妊娠中の方とそのご家族

**定員:** 50組(要予約・先着順)

**料金:** 無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

**お申し込み:** 後日、森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum) にて受付を開始します。

\* 出演者は予告なく変更になる場合があります。予めご了承下さい。

\* 他にもアーティストトークやスクールプログラム、アクセスプログラムなど、さまざまな企画を予定しています。

プログラムの詳細やお申し込みなどの最新情報は、森美術館ウェブサイトをご覧ください。 [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

**プログラムに関するお問い合わせ:** 森美術館 ラーニング担当

E-mail: [mam-learning@mori.co.jp](mailto:mam-learning@mori.co.jp)

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上  
Tel: 03-6264-2039 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)

## 関連情報

### ■ 音声ガイド

全16作家の解説がお聞きいただける音声ガイドを、ウェブアプリにてご用意しています。

※ご自身のスマートフォンをお使いください。

※スマートフォンやイヤフォンの貸し出しは行っておりません。

**ガイド件数:** 全16件 **解説時間:** 約22分 **言語:** 日本語、英語

**料金:** 500円(税込) **企画・制作:** アイシアター **監修:** 森美術館

### ■ 展覧会カタログ

**論考執筆者:** 片岡真実(森美術館館長)、熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)、

徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

**サイズ:** A4変形(28.2×21cm) **ページ数:** 266ページ(予定)

**言語:** 日英バイリンガル **価格:** 未定

**発売日:** 2022年8月下旬(予定) **制作・発行:** 森美術館

**販売場所:** 森美術館 ショップ 53(六本木ヒルズ森タワー53階)、森美術館 ショップ(六本木ヒルズウェストウォーク3階)、

森美術館オンラインショップ(<https://shop.mori.art.museum/>)

**お問い合わせ:** 森美術館 ショップ 53

Tel: 03-6406-6118 営業時間: 10:00-22:00(祝日を除く火曜日は17:00まで) ※美術館の開館時間に準ずる

### ■ 割引キャンペーン

#### ウェブ限定!「ナイトペアパス」

18:00以降、2名でお得に入館できるペアチケットをオンライン限定で販売します。夏の夜の森美術館で、お友達やご家族、恋人と一緒に、パンデミック以降の生活、ウェルビーイングについて考えてみませんか。

**期間:** 2022年6月29日(水)~7月31日(日)

**対象:** 18:00以降、2名でご来場のお客様

**料金:** 一般2名様 土・日・休日2,500円(1名様1,250円)、平日2,000円(1名様1,000円)

※通常オンライン料金: 一般2名様 土・日・休日3,600円(1名様1,800円)、平日3,200円(1名様1,600円)

※オンライン限定のキャンペーンです。 ※他の割引との併用はできません。 ※事前予約制(日時指定券)

#### 「学生応援サマーパス」

学生・子供料金が500円引きになるお得なキャンペーンです。新型コロナウイルスの影響でさまざまな制限を受けるなか、フィジカルな体験は貴重な学びの機会です。森美術館は、学生・子供のみなさんを応援します。

**期間:** 2022年6月29日(水)~7月31日(日)

**対象:** 学生(高校生、大学生、大学院生、短大生、専門学校生)、子供(4歳から中学生まで)

**料金:** 一律500円引き

※通常オンライン料金: 学生 土・日・休日1,200円、平日1,100円/子供 土・日・祝日600円、平日500円

※通常窓口料金: 学生 土・日・休日1,300円、平日1,200円/子供 土・日・休日700円、平日600円

※学生は、来館時に身分証等をご提示ください。 ※他の割引との併用はできません。

※事前予約制(日時指定券)。当日、日時指定枠に空きがある場合は、窓口での購入も可能です。

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上  
Tel: 03-6264-2039 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)

## 森美術館「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」 同時開催小プログラムのご案内

会期：2022年6月29日(水)～11月6日(日) 会場：森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、  
多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

### MAMコレクション015: 仙境へようこそーやなぎみわ、小谷元彦、ユ・スンホ、名和晃平

主催：森美術館

企画：椿 玲子(森美術館キュレーター)

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamcollection015/index.html>



小谷元彦  
《ホロウ：全ての人の脳内を駆け抜けるもの》  
2010年 FRP、ウレタンほか  
240×80×430 cm  
展示風景：「小谷元彦展：幽体の知覚」森美術館(東京)  
2010年  
撮影：木奥恵三



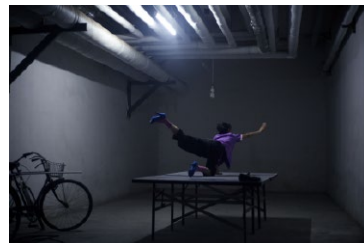
MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから  
選りすぐりのシングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

### MAMスクリーン016: ツァオ・フェイ(曹斐)

主催：森美術館

企画：椿 玲子(森美術館キュレーター)

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamscreen016/index.html>



ツァオ・フェイ  
《霧と霧》  
2013年 ビデオ 60分46秒  
Courtesy: Vitamin Creative Space, Guangzhou;  
Sprüth Magers, Berlin/London/Los Angeles



MAMリサーチは、アジアの現代美術を中心に特定の作家や動向に着目し、  
歴史的、社会的な文脈とともに考える資料展示です。

### MAMリサーチ009: 正義をもとめて—アジア系アメリカ人の芸術運動

主催：森美術館

企画：アレクサンドラ・チャン(ラトガーズ・ニュージャージー州立大学美術史部門准教授)  
矢作 学(森美術館アシスタント・キュレーター)

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamresearch009/index.html>



ポップ・ジャン  
《セントラルパークで公演するクリス・イイジマと  
ジョアン・ノブコ・ミヤモト(ニューヨーク、1971年  
2月)》  
Courtesy: Bob Hsiang Photography

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上  
Tel: 03-6264-2039 E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)